

L1 ANSWER 1 OF 1 WP INDEX COPYRIGHT 2005 THE THOMSON C on STN
AN 1984-227814 [37] WPINDEX

DNC C1984-096010

TI Skin metabolism-activating cosmetic material - comprising nucleic acid derivative moisture-retaining component and/or physiologically active material.

DC D21 E19

PA (KOBA-N) KOBAYASHI KOSE KK

CYC 1

PI JP 59134706 A 19840802 (198437)*

3

<--

ADT JP 59134706 A JP 1983-5944 19830119

PRAI JP 1983-5944 19830119

IC A61K007-00

AB JP 59134706 A UPAB: 19930925

Cosmetic material (I) consists of a nucleic acid related substance (II), a moisture-retaining component (III) and/or a physiologically active component (IV). (II) may be at least one of DNA, RNA, nucleotides, nucleosides, AMP and their salts and derivs. (III) may be at least one of amino acids (V), NMF components (VI), peptides (VII) and polysaccharides (VIII). (IV) may be at least one of vitamins (IX), enzymes (X) and crude drug extracts (XI).

(V) are e.g. serine, glycine and arginine. (VI) are e.g. lactic acid, succinic acid and urea. (VII) are e.g. soluble collagen and soluble elastin. (VIII) are e.g. cellulose, starch and hyaluronic acid. (IX) are e.g. vitamins A, B2 and C. (X) are e.g. papain and trypsin. (XI) are e.g. Japanese angelica root and Ginseng.

USE/ADVANTAGE - (I) can activate metabolism in the skin, and has excellent skin-protecting and moisture-retaining characteristic. (I) can be used e.g. in the form of toilet waters, creams or milky lotions.

0/0

FS CPI

FA AB

MC CPI: D08-B09; D09-E; E06-D09; E06-D17; E07-A02; E10-A13B; E10-A17;
E10-B02D; E10-C02D; E10-C04D; E10-E04M

⑨ 日本国特許庁 (JP)

⑩ 特許出願公開

⑪ 公開特許公報 (A)

昭59-134706

⑫ Int. Cl.³
A 61 K 7/00.

識別記号

庁内整理番号
7306-4C

⑬ 公開 昭和59年(1984)8月2日

発明の数 1
審査請求 未請求

(全 3 頁)

⑭ 化粧料

⑮ 特願 昭58-5944
⑯ 出願 昭58(1983)1月19日
⑰ 発明者 岡部美代治
東京都葛飾区新小岩3-13-10

メゾンドウ汐澤201

⑱ 発明者 品川由紀夫
横浜市磯子区磯子2-19-39
⑲ 出願人 株式会社小林コーポ
東京都中落区日本橋3丁目6番
2号

明細書

1. 発明の名称

化粧料

2. 特許請求の範囲

(1) 核酸関連物質と保湿成分及び／又は生理活性成分とを必須成分として含有することを特徴とする化粧料。

(2) 核酸関連物質が、DNA・RNA・スクレオチド・スクレオシド・AMP、及びそれらの塩類、並びにそれらの誘導体の一類又は二類以上の組み合わせからなる特許請求の範囲第1項記載の化粧料。

(3) 保湿成分が、アミノ酸類・NMF成分類・ペプチド類・多糖類の一類又は二類以上の組み合わせからなる特許請求の範囲第1項記載の化粧料。

(4) 生理活性成分が、ビタミン類・酵素類・生葉抽出物の一類又は二類以上の組み合わせからなる特許請求の範囲第1項記載の化粧料。

3. 発明の詳細な説明

本発明は、新規な化粧料に関し、その目的とするところは、皮膚の新陳代謝を活発にし、皮膚の保護と水分の保持性に優れた効果を有する化粧料を提供するものである。

従来より、DNA・RNA等の核酸関連物質は皮膚の保護並びに保湿剤として化粧料に配合されてきた。しかしながらこれら核酸関連物質の単独の配合では、その期待される作用効果が未だ充分ではなく、又そのため配合量を増加すれば化粧料の安定性に悪影響をおよぼす等の欠点を有していた。

そこで本発明者等は、係る問題を鑑みて核酸関連物質の作用効果を相乗的に強化させる組み合わせについて幅広く継続研究の結果、皮膚の保護と水分の保持性に優れた効果を有する化粧料を得るに及び本発明を完成させた。

すなわち本発明は、核酸関連物質と保湿成分及び／又は生理活性成分とを必須成分として含有することを特徴とする化粧料である。

本発明に用いる核酸関連物質とは、DNA・

RNA・ヌクレオチド・ヌクレオシド・AMP等と、及びそれらの塩類、並びにそれらの誘導体を挙げることができ、一種又は二種以上の組み合わせにより使用でき、その使用量は0.0001重量%以上で有効である。

本発明に用いる保湿成分とは、アミノ酸類・NMF成分類・ペプチド類・多糖類等を挙げることができ、一種又は二種以上の組み合わせにより使用でき、その使用量は0.01重量%以上で有効である。

次に生理活性成分とは、ビタミン類・酵素類・生薬抽出物等を挙げることができ、一種又は二種以上の組み合わせにより使用でき、その使用量は0.0001重量%以上で有効である。

アミノ酸類とは、セリン・グリシン・アスパラギン・アスパラギン酸・リジン・アルギニン・スレオニン・システイン等と、及びその誘導体を挙げることができる。

NMF成分類とは、乳酸・プロパン・クエン酸・コハク酸・尿素等と、及びこれらのナトリウム

ム塩・カリウム塩・トリエタノールアミン塩・アルギニン塩・リジン塩・ヒスチジン塩・オルニチン塩・オキシリジン塩等の塩類、並びにそれらの誘導体を挙げることができる。

ペプチド類とは、可溶性コラーゲン・可溶性エラスチン・ゼラチン等と、及びそれらの誘導体を挙げることができる。

多糖類とは、セルロース・デンプン・カラザーナン・コンドロイチン硫酸・ヒアルロン酸等と、及びそれらの塩類、並びにそれらの誘導体を挙げることができる。

ビタミン類とは、ビタミンA・ビタミンB₂・ビタミンB₆・ビタミンB₁₂・ビタミンD・ビタミンE・ビタミンF・ビタミンH等と、及びそれらの誘導体を挙げることができる。

酵素類とは、パバイン・トリプシン・合糖ペプシン・ビオブラーーゼ等のプロテアーゼ、塩化リゾチーム、アルカリ性キラーゼ等を挙げることができる。

生薬抽出物とは、シコン・当帰・人参・当薬

・川芎・地黄・アルニカ・カミツレ等の消炎作用を有するものを挙げることができる。

本発明に於ける化粧料は、上記した、核酸関連物質と保湿成分及び/又は生理活性成分とを必須成分として含有することを特徴とする化粧料であり、柔軟化性化粧水・吸収化性化粧水・洗浄用化粧水等の化粧水類、エモリエントクリーム・マッサージクリーム・クレンジングクリーム・メイクアップクリーム等のクリーム類、エモリエント乳液・モイスチュア乳液・ミルキイローション・ナリシング乳液・クレンジング乳液等の乳液類、ゼリー状パック・ベースト状パック・粉末状パック等のパック類、及び洗顔料類などが主なものとして挙げられる。

次に本発明について、実施例をあげてさらに説明する。これらは本発明を何ら限定するものではない。以下は重量%を表わす。

〔実施例1〕クリーム

(処方)

(II) ウセリン

(2) 流動パラフィン	1.0.0
(3) 小麦胚芽油	5.0
(4) ステアリン酸	1.5
(5) セスキオレイン酸ソルビタン	1.5
(6) 香料	0.1
(7) 1,3-ブチレングリコール	3.0
(8) カルボキシビニルポリマー	0.01
(9) DNAナトリウム	1.0
(10) ヒアルロン酸ナトリウム	0.2
(11) 当帰エキス	1.0
(12) 防腐剤	0.1
(13) 水酸化ナトリウム	0.005
(14) 精製水	残量

(製法)

A (1)～(6)を加熱溶解(70°C)する。

B (7)～(10)を加熱溶解(70°C)する。

C AにBを加え乳化をし、冷却し、クリームを得る。

〔実施例2〕化粧水

(処方)

%

特開昭59-134706(3)				
(1) エタノール	7.0	(2) 流動パラフィン	2.0	
(2) 1,3-ブチレングリコール	7.0	(3) サフランオイル	3.0	
(3) 酢酸d ₄ -α-トコフェロール	0.05	(4) モノステアリン酸グリセリン	1.5	
(4) 防腐剤	0.1	(5) セスキオレイン酸ソルビタン	1.0	
(6) 香料	0.1	(6) 香料	0.1	
(7) モノオレイン酸ポリオキシエチレンソルビタン(20E.O.)	1.0	(7) モノオレイン酸ポリオキシエチレンソルビタン(20E.O.)	1.0	
(8) DNA	0.5	(8) 1,3-ブチレングリコール	5.0	
(9) d ₄ -ビロリドンカルボン酸ナトリウム液	0.2	(9) ポリアクリル酸ナトリウム	0.05	
(10) シコンエキス	1.0	(10) DNAナトリウム	0.2	
(11) 水酸化ナトリウム	0.005	(11) 防腐剤	0.1	
(12) 精製水	残量	(12) 可溶性エラスチン	0.5	
(製法)		(13) 精製水	残量	
A (1)～(6)を混合溶解する。		(製法)		
B (7)～(11)を混合溶解する。		A (1)～(6)を加熱溶解(70℃)する。		
C AをBに加え混合し、化粧水を得る。		B (7)～(11)及びCを加熱溶解(70℃)する。		
[実施例3] 乳液		C AをBに加え乳化し、冷却し、Cを加えて乳液を得る。		
(処方)	5	本発明の化粧料の作用効果につき、使用テストにより試験を行なった。使用テストは、30		
(1) ワセリン	0.5			

～40才の10名の女性をパネルとし、毎日朝と夜の2回、洗顔後、実施例1のクリームを適量顔面に、2週間にわたって塗布することにより行なった。評価は、「肌がしっとりとしているように感じられるようになった」、「肌あれがなくなった」、「小じわが目だたなくなった」の3項目につきその有効性を判定した。結果は表1に示すとおりである。

いるように感じられるようになり、肌あれがなくなり、小じわが目だたなくなったという効果が、高い有効率をもって確認された。

また、実施例2の化粧水及び実施例3の乳液についても、ほぼ同様の使用テストを行なった結果、同様の効果が、高い有効率をもって確認された。

以上

出願人 株式会社 小林コーワ

使用テスト	有効	やや有効	無効	有効率(%)
肌のしっとり感	7	3	0	100
肌あれ	6	4	0	100
小じわ	5	3	2	80

表1の結果よりあきらかに、実施例1のクリームの使用により、肌がしっとりとして

平成 2. 4. - 9 発行

手 続 業 正 善 (自 発)

正

平成元年12月18日

特許法第17条の2の規定による補正の掲載

昭和 58 年特許願第 5944 号 (特開昭 59-134706 号, 昭和 59 年 8 月 2 日
発行 公開特許公報 59-1348 号掲載) について特許法第17条の2の規定による補正があつたので下記のとおり掲載する。 3 (2)

Int. C1.	識別記号	庁内整理番号
A61K 7/00		7306-4C

特許厅長官殿

1. 事件の表示

昭和 58 年 特許願第 5944 号

2. 発明の名称

化粧料

3. 補正をする者

事件との関係 特許出願人

住所 東京都中央区日本橋3丁目6番2号

名称 株式会社 小林コーセー

代表者 小林禮次 

4. 補正命令の日付

自 発

5. 補正の対象

明細書の「発明の詳細な説明」の欄

特許厅
1.12.19
出
183

6. 補正の内容

(1) 明細書第4ページ第9行

「ヒアルロン等」とあるを、「ヒアルロン酸等」と訂正する。

- (183) -

BEST AVAILABLE COPY